

好評連載

住設リフォームガイド

現調・施工実績35万件以上！メガボックスの住設ソムリエが直伝！

1日に数十件とバス・キッチンの現場調査と工事を手掛けるメガボックスの住設ソムリエたちが、これまで培ってきた住設リフォームの知恵と技術をお伝えします。



メガボックス 大高 春さん

メガボックス住設ソムリエの統括マネージャーとして活躍。大学卒業後に同社へ入社し13年目。自らも年間1400件以上を現場調査している住設のスペシャリスト。リフォームプロユーザーからは説明が明確と指名するファンも多く、システムバス・キッチン職人からの信頼は勿論の事、豊富な知識と経験で統括マネージャーとして奮闘中！

第16回

実録「悩み多い現場」。解決策はこれだ！

皆さん、こんにちは。メガボックスの大喜です。

前回の第15回までは、システムバスのリフォームでの間違いやすい内容や、現調での注意点、知っておいて欲しい知識などをピックアップして、テーマごとに解説してきました。

今回からは趣向を変えて、実例を元に解説していきます。

通常の組立とは少し違った実例、難問とその解決策を紹介しようと思います。

これからの提案の参考にしていただけたら幸いです。

★1 介護などのため設備配管類を更新するフルリフォーム

システムバスやトイレ等の住設機器は既存の間取りスペース内での交換が一般的です。新規に給排水・ガス・電気・ダクト等の設備関係を引いてくることがとても難しく、壁や床等の解体が必須になり、工事範囲や工期、コスト面での問題が生じるからです。従ってフルリフォーム（壁床を一新するスケルトンリフォーム）や設備配管類を更新するリフォームであれば、住設機器の間取り変更やサイズ拡大縮小は十分プランニング可能です。（集合住宅は管理規約で不可なケースもあります。）

例えば、

- あまり使っていなかった部屋のスペースを有効活用したい。
- 介護のため、別室（別階）にシステムバス・トイレが必要になった。
- 住設機器のサイズや間取りのイメージを大きく変えたい。

このような既存スペース内での部分リフォームでは実現できない要望に因應するためには、既存の間取りやサイズにとらわれない、柔軟な提案も必要になる時があります。この難問を解決していきます。

Case1 寝室の角にシステムバスを設置

本棚部分までシステムバスを押し込むこととし、システムバス外の有効スペースを可能な限り確保するように打ち合わせしています。



メガボックス株式会社
www.magavax.co.jp

事業内容：
リフォーム企業支援サイト「megabb.net」
(http://megabb.net)運営
B2Bバス・キッチンリフォーム代行サービス
ネットリフォーム事業
リリパ住設ネットリフォームショップ
http://www.rerepa.jp/
リリパ(楽天・Yahoo!ショッピング・Amazon)

所在地：神奈川県横浜市青葉区市ケ尾町1170-1
創業：1985年・設立：1992年3月13日
代表者：代表取締役 小林哲也

スタッフ絶賛募集中

Case2 普段使わなかった部屋を改装しシステムバスを設置



バリアフリーにするため、フローリングを解体し、新規に給排水設備の配管とバリアフリーになる高さで土間コンクリートを打ちました。

★2 在来浴室の「窓」との絡みで器具を通常的位置から変更

既存の間取りは多種多様で、いろいろな問題につきあっています。在来のタイルの浴室からシステムバスへのリフォームの場合も同じです。在来タイルの浴室では、その設計自由度を活かし、窓や器具などの位置は様々です。このためシステムバスの設置が通常通りにはいかならない場合も珍しくありません。なかでも窓は寸法的にも大きく、開口部になるため、納まりの問題で絡むケースが多々あります。もちろん窓を入れ替えたり、少し大掛かりなりリフォームなら問題あ

りませんが、予算の関係上今あるなかでシステムバスへのリフォームをする場合は知恵を絞られます。通常システムバスでは、長辺方向に鏡、カウンター、収納棚、シャワーフックなどの器具が設計されています。ですから、浴槽の長辺側に既存の窓があると器具とは絡まない場合が多いのです。ここでの実例は、浴室の長辺側に窓（システムバスでいうところの器具面に窓がある場合で、お客様の使い勝手を考えて器具を通常と違う位置に設置したケースです。

Case3 介護のため、スケルトンリフォームで間仕切り(壁)を全部撤去してシステムバス設置



間取り変更+バリアフリーにする(①)ため、床コンクリートを削り下げて配管類も一新しています(②)。このケースでは介護のため、どうしてもバリアフリーにする必要がありました。

Case1 水栓、カウンターは残し、鏡を他の面に移設する



ここでは、器具面に全幅の窓が設置されている間取り(①)でした。幸いにも、窓が少し高く設置されていたため、カウンターと水栓は通常位置で取り付けが可能でした。収納棚とシャワーフックはそのまま器具面に高さを変えて取り付けました。鏡はドア横の袖壁に移設して納めました(②)。

Case2 棚や鏡など器具を全面的に移設

器具面に大きな出窓が設置されていて(①)、器具全部が絡む状態でした。鏡、水栓、収納棚、スライドシャワーバー、全てを通常とは逆の面に取り付けました(②)。器具との絡みを避けるため、折戸の開き勝手も通常とは逆勝手(③)にしています。

